

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 3 - 0 8	令和6年度第4回すみだ環境共創区民会議		
開催日時	令和6年7月26日(金) 18時30分から19時30分まで			
開催場所	墨田区役所 3階 31会議室			
出席者数	21人 【委員】 16人(うちオンライン4名) 来場による参加 宇田川委員、大垣委員、門倉委員、河田委員、小林(紀)委員、小木曾委員、小林(茂)委員、佐原委員、橋本(玲)委員、橋本(恵)委員、深萱委員、松村委員 オンライン参加 石井委員、碓氷委員、木股委員、森下委員 【事務局】 5人 環境政策課長、環境保全課環境管理担当係長、環境政策課環境政策担当主査 2名、環境政策課環境政策担当主事			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	傍聴者数	なし	
議題	1 すみだ環境共創区民会議の方向性について ア 各自治体の事例について イ 各委員の意見交換 2 次回の会議について			
配付資料	・他自治体の環境会議【資料1】			
会議概要	議題1 すみだ環境共創区民会議の方向性について 事務局から資料1を基に、すみだ環境共創区民会議の方向性に対する説明を行った。 議題2 次回の会議について 事務局から次回の会議についての説明を行った。 以上、事務局で議題について一通り説明を行ったところで、委員に対し、議題1から議題2に関して質問や意見があるか伺った。 宇田川委員：それでは、議題1について意見はあるか。 佐原委員：自分たちの活動を区民に広く知ってもらうことが重要である。そのために、物事が対象療法なのか根治療法なのかを考える。今、何をやるのか物事の深掘りが必要である。 門倉委員：すみだ環境共創区民会議では毎月1時間会議を行っているが、内容を深く掘り下げられない。集中的に検討するテーマを決め、短期に討議する			

	ことも必要ではないか。 小林（紀）委員：会議のやり方を大幅に変えることは難しいと思う。区民に広める方法を考える必要ではないか。それには、区の政策や計画に盛り込んでもらうことが必要であると思う。 深萱委員：現在の会議体制を変えるというよりは、区民が政策や会議に関心を持っているかを知るために、無作為抽出をやってもよいのではないだろうか。 大垣委員：昨年、決めたテーマを行えていない。手段である HP の更新や SNS 等の情報発信も行えておらず、達成感がない。企業・自治体・学校の人たちを入れて、意見を聞くことができればよいのではないか。 事務局：すみだ環境共創区民会議は、委員が委嘱されて行っている。委員が固定されていて開放的でないところが課題である。SNS 等の情報発信をしていくなら、何か手段を考えていく必要がある。 大垣委員：やり方として考えるなら、他の団体や専門家のレクチャーを聞くこともよいのではないか。 河田委員：墨田区に合ったやり方を考えて、取り組む。2050 年カーボンニュートラルに向かって、2 年間（環境フェア・HP など）に取り組んできた。HP については、更新をすることが重要である。対象年齢を幅広くしていく。例えば、中学生には環境会議に参加してもらうことや小学生向けに出前授業を行うなど。町会・個人・学生など地区分けをすることで、墨田区の特徴を色分けできる。このように広げていき、数値化をしていく。 小林（茂）委員：すみだ環境共創区民会議が環境フェアのための会議なのか。何のための会議なのかがわからない。すみだ環境共創区民会議では、区の基本計画で計画されたことを区民に見える形にして行くことだと思っている。見えるものがないから、達成感が感じられない。一番大切なのは、区の基本計画を絵に描いた餅で終わらせないことである。そのためのすみだ環境共創区民会議だと思っている。 橋本（恵）委員：テーマはあるが、会議の回ごとに色んな意見があり、意見を絞って、その結果の発表が環境フェアであると思う。区民との接点が環境フェアのみになっていると思う。専門家の意見を聞くことは重要である。専門家からの意見によって、違う角度からテーマを考えることができるのではないか。また、ワークショップなどを設けて、区民との接点を多くしていくことも重要である。 橋本（玲）委員：街歩き・緑化めぐりをして、緑が少ないところに緑を植えるなど実践的な活動を増やしていきたい。 小木曾委員：すみだ環境共創区民会議はその年に 1 つのテーマに絞り、活動してきた。従来からのテーマとしては、水・緑・ごみが挙げられている。2 年間の任期終了後に活動報告書を作成し報告をしている。自分たちが勉強し区民に啓発していくことが重要である。 松村委員：今の会議体制でよいと思っている。区民を入れる方法として、1 つ目標が出来たら、無作為で区民を選び、目標に対して意見を伺う。1 年間で
--	--

	決めた目標に対し委員の中で活動し、最後に再び区民を招集して成果発表をする。また、墨田区の場合に無作為抽出はどのように行うのか。 事務局：ポスティングをして、無作為抽出する。例えば、1500 人にポスティングすると、20 人程度集まるのではないかな。 松村委員：ポスティングするときに、環境だよりを一緒に送付したら、より人が集まるのではないかなと思う。また、他の自治体とコラボしてもよいと思う。 宇田川委員：環境フェアは、今までの活動を区民に発表する場である。HP についても、大きな成果の位置づけであると思う。すみだ環境共創区民会議には、目標と手段がある。区民に環境に対して関心を持ってもらうことが大きな目標である。手段として、区民にどのように環境のことを知ってもらうかを考えていく。目標と手段をきっちりと抑えて、活動することが重要である。 木股委員：今の会議体制の形を変えずによいと思う。達成感をどこで感じるかは人それぞれなので、まずはどこを目指すのかを決めることが重要である。高い目標にどう取り組むか、どこに注力するのかなど目線合わせを行っていく。ここに応じた会議運営の方法や委員の役割分担を考える。みんなが無理なく役割分担をして、目標を達成できるとよい。 森下委員：区民に広く知らしめる点と小学校の校長先生や大学生、高校生など年代を幅広く参加いただく点は取り入れた方がよいと思う。フランクな目標は、区民に意見を聞ける点は良いと思うが、政策に組み入れるとなると知識が不足しており、深い議論にならない。よりよい政策を作り、区民に広げていくという広報部分と分けて、深い議論をしていけるとよい。 石井委員：目的と手段を明確にして、最終的に環境フェアで成果報告をすることだと思っている。目的は、区民に色んな形で環境のことを知ってもらうことである。手段については、一歩ずつ進んでいく形でよいと思う。少しでも区民が環境のことに関心を持ってくれたら成功だと思っている。会議体制という点に関して、毎月 1 時間の会議体制は他の自治体にないで、変えなくともよいと思う。また、近隣の区や姉妹都市と連携していけるとよい。 事務局：区としても意見を踏まえ、今後すみだ環境共創区民会議をどのように運営していくか考えていけるとよい。毎月 1 時間会議をすることは、内容が煮詰まらない部分もあるが、従来からの運営方法を大切にしているためよいと思う。来年度には、すみだ共創プラン改定を予定しているので、区民からの意見を取り入れていきたい。そのため、すみだ環境共創区民会議での意見も取り入れていき、会議以外で区民の意見も取り入れていく方法がないか模索していきたい。 以上
所 管 課	墨田区資源環境部環境政策課環境政策担当 内線 5 4 7 3